

## 第 12 回韓日未来フォーラム 報告書

久保木さやか

アジア希望キャンプ機構でインターンを開始してから 1 週間が経過し、日韓関係が急激に悪化していている状況を体感している中で私に何かできないか考えるようになった。そこで、両国の若者同士、話し合える場を設けたいと思い、緊急的に第 12 回韓日未来フォーラムの開催を決定した。

イベントを企画から実施まで 1 人で行うことは初めての経験だった。その上、日韓関係が悪い中、参加者は集まってくれるのかという心配も大きかった。やはり、そう簡単に目標人数を集めることができず、韓国人の日本就職を支援している KOREC という団体にご協力いただいたり、各大学の日本人留学生会に直接メッセージを送ったりして参加者を集めていった。最終的には目標人数であった日本人 12 人、韓国人 12 人を集めることができた。

フォーラム内では「最近の日韓関係」についてと「日韓相互理解に向けて私たちができることは何か」の大きく 2 つのテーマに分けて話し合った。このフォーラムでネックになったのが 4 時間という短時間での開催である。この短時間の中でどれだけ内容の濃い話し合いや意見の共有ができるかを考えた結果、参加者には最近の日韓関係を表す一言は何か、その一言を選んだ理由について考えてきてもらう事前課題に取り組んでもらうことにした。参加者の協力もあり、当日は予定通りにタイムコントロールをすることができた。最近の日韓関係を表す一言としては「政府≠民間」、「もどかしさ」、「平行線」、「扞格齟齬」などの回答が挙がった。

また、日韓相互理解に向けて私たちができることについてのパートでは政治と民間、実現可能性高低の軸を作成し、4 象限マトリクスを使用してアイデア出しを行った。

結果として、民間レベルで実現可能性が高い部分、つまり、私ができることについては民間交流促進（交流会開催、討論会開催など）、正しい情報の発信と情報を見分ける判断力という意見が多く挙がった。日本語と韓国語ができて、両国の情報を得られる参加者が多かったからこそ両国のメディアの問題が多く挙がったと感じる。

また、フォーラムの 3 日後にはフォーラムの結果を参加者以外にも共有するために同会場での報告会も行った。報告会参加者にも実際にアイデア出しを行ってもらい、新たなアイデアも追加された。フォーラムは参加者を大学生に限定して行ったが、報告会は年齢制限を設けなかったため高校生～40 代の社会人までより幅広い年齢層の方に参加していただいた。

私は約 1 年半前に韓国語の勉強を始めたため、高い韓国語能力も幅広い日韓に関する知識も無く、フォーラムを開催することに対して不安も大きかった。フォーラム当日もタイトな時間配分や通訳の問題等、反省すべき点が多くあった。しかし、自分ができることを考えて、最終的には形にできて良かったと思う。